



年 組 名前

道新でワークシート

札幌特産のタマネギ「札幌黄」の苗の定植作業が札幌市内で本格化している。定植機が畑の上を走り、真っすぐな緑のラインを描い

ている。札幌黄は明治時代から続く在来種。天候不良や病害に弱く、市内での栽培は交配種が主流となっている。

肉厚で濃厚な味わいで、根強い人気があるという。札幌市農協によると、市内のタマネギの作付面積は約260ha。このうち札幌黄は約30戸16haで作付けする。50㎡で栽培する Aさん(39)は25日、北区の畑に定植。ハウスで育てた長さ15cmほどの苗を等間隔で植え付けた。作業は大雪の

影響もなく、平年通りに進んでいるといい、Aさんは「個体差が出やすい品種だからこそ育てがいがあ

る。無事収穫を迎えられ

ば」と話した。

市内の定植は5月の大型連休明けまで続く見込み。

(高田かすみ)

緑の苗「札幌黄」一直線

定植作業が本格化



機械で真っすぐに並ぶように植え付けられる札幌黄の苗
＝25日、札幌市北区（小室泰規撮影）

2022年4月27日（水）朝刊 札幌市内版 17ページ（記事は再編集しています）

①札幌特産（とくさん）のタマネギ「札幌黄」は、天候不良（てんこうふりょう）や病害（びょうがい）に弱く、個体差（こたいさ）の出やすい品種（ひんしゅ）なのに、育てられ続けている理由は何だと思いませんか。

②札幌黄は人気があるのに、260ヘクタール中16ヘクタールしか栽培（さいばい）されていません。どうしてももっとたくさん栽培（さいばい）しないのでしょうか。理由を考えましょう。